

2026年あじさいまつり俳句優秀作品

芝 喜久子 選

特選

紫陽花の小径短パン 駆け抜ける

川崎市 藤原慎太郎

評 短パンと詠んだことで子供を想像できる。子どもが駆け抜けるあじさいの小径、瑞々しく咲き連なる紫陽花が浮かんできます。

四葩咲く戦なき世を常しなへ

日野市 西尾 京子

評 今年も美しく四葩がひらいた、何と幸せなことだ。遠き地の戦に不穏と悲しみを感じられていたのであろう、四葩に、平和を気づかせられた。

竹とんぼ四葩の丘へまよひきて

多摩市 杉浦 孝子

評 咲き誇る四葩を楽しんでいる作者、その丘に誰が飛ばしたか竹とんぼが、竹とんぼだけが宙に浮かびくる。

アナベルの花に埋もれし梅雨晴間

府中市 小林 良平

評 芝生の奥に真っ白に咲き群れるアナベル、その中に溶け込んでいる作者がゐる、時は梅雨晴間。穏やかなひと時だったことでしよう。

紫陽花や五年も経てば父の歳

府中市 保坂 俱孝

評 紫陽花に囲まれ、ふと父親を思い出し年月を感じる作者。父の亡くなった年にと五年で追いつくことを

佳作

実梅落つ甘き香りの雨上がり

町田市 木村 裕子

紫陽花や万の眼に万の青

府中市 前原 直子

あじさいの雫ひかりし雨あがり

杉並区 大川 文明

紫陽花の波の間に間に園児帽

世田谷区 杉山 隆

初咲きの紫陽花つつむ稚児の手

多摩市 三浦 興仁

空色の四葩に祈る四十九日

川崎市 西崎 真由

辻々を守る石塔令歎の花

府中市 大内みち子

紫陽花の色取り取りに安らけし

府中市 山田 幸子

裾広げあじさいの名はダンスパーティー

府中市 在原千枝子

あじさいが風でゆらゆらきもちいい

武蔵野市 川井 苾太(小四)

(敬称略 順不同)

「芝 喜久子」 府中市在住。市村完一郎に師事。俳人協会会員。